JRFU

No. 4

Japan Freight Railway Union Tohoku Young

September 16, 2026

Publisher T. Okubo

全組合員の力で安心して働ける職場をつくり出そう！

今年１月、南長岡駅構内で若き仲間が両足を切断する痛ましい労働災害が発生しました。二度とこのような事故を起こさないため、組織を挙げて安全最優先の風土づくりを進めていた最中、８月に関東支社管内の駅にて入換作業中、信号担当が「要求と異なる進路」を構成し、車両が異進路へ進む事態が発生しました。現場からの情報で調査した結果、本社の指示のもと、実作業の中で管理者による指示で意図的に、作業員の資質を抜き打ちではかる「サプライズテスト」であったことが明白となりました。帯同した管理者が異常に気づいて「車両を止める」手筈でしたが、実際には止めることができませんでした。

人命軽視と「人」へ責任を押し付ける企業風土の打破

人間である以上ミスは避けられず、「管理者が必ず止められる」という保証もなく、「サプライズテスト」の計画段階から人命へのリスク管理は欠落していたと言わざるを得ません。

「規程を守れば事故は起きない」として抜き打ちテストを行い、責任を現場の「人」の資質にのみ求めるのは、適切なハード・ソフト両面での再発防止策を怠り、ヒューマンエラーの本質を無視した経営姿勢の表れです。こうした信頼関係を壊す手法に安全上の正当性はなく、働きたくない職場環境を生むだけです。

現在、貨物労組は会社へ「サプライズテスト反対・中止」を強く要求していますが、会社側は「問題ない」として対立が続いています。

「気づく・声をあげる・皆で闘う」職場からの実践を！

「安全は労使共通の課題」です。しかし、会社経営にとって都合のいい安全と、現場の命を守る安全はまったく異なります。目的は同じであるのに、会社が打ち出す達成へのプロセスは、根本から大きく間違っています。

現場の違和感や問題に「気づく」こと、そして気づいたことを１人で抱え込まず仲間や役員へ「声をあげる」ことが第一歩です。

安全を会社任せにせず、労働者自身がつくり出すたたかいが必要です！
現場で働く皆さんの声がたたかいの大きな原動力となります！